

2024年3月5日

関係各位

千代田化工建設株式会社
IR・広報・サステナビリティ推進セクション**液化CO₂回収・利用・貯留の国際セミナーに登壇**
—バリューチェーン全体の定量評価・課題に国内外から高い関心—

千代田化工建設株式会社(本社:横浜市、会長兼社長:榊田 雅和、以下「当社」)は、3月4日、東京都港区のNS虎ノ門ビルにおいて、液化二酸化炭素(CO₂)の回収・利用・貯留(CCUS: Carbon Capture, Utilization and Storage)に関する国際的なシンクタンク・グローバル CCS インスティテュート(GCCSI: Global CCS Institute、注1)が主催したセミナー「Japan CCS Forum Technical Seminar —CCS バリューチェーンにおける3方式の比較検討—」に参加し、当社執行役員の櫻井公穂とガス・LNG プロセス設計部長の玉川淳は、液化CO₂の技術として想定される常温昇圧(EP)・中温中圧(MP)・低温低圧(LP)(以下「3方式」)それぞれのバリューチェーン(注2)全体のコストや納期などの定量評価と、社会実装に向けた課題について講演を行いました。

当社は日本郵船株式会社(以下「NYK」)、NYK 関連会社の Knutsen NYK Carbon Carriers AS (クヌッツェン・エヌワイケイ・カーボン・キャリアーズ、KNCC 社)と、3方式それぞれについて、液化CO₂の一時貯蔵などを行う陸上設備と海上輸送部分を通じたCCUSバリューチェーン全体の定量的な比較検討を実施しており、当社の講演はこの検討結果を踏まえたものです。

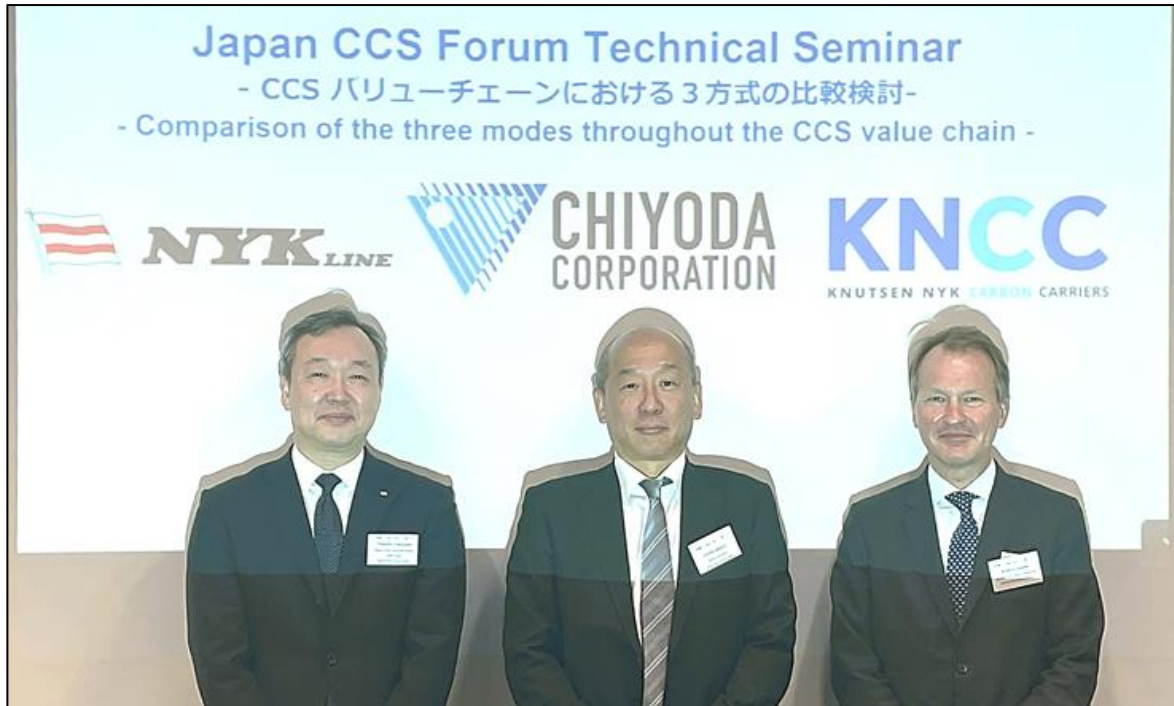
[関連プレスリリース](#)

セミナーはオンラインで海外にも中継され、会場と合わせて25カ国の様々な産業の企業・団体から486名が参加しました。冒頭のあいさつで櫻井は、NYKをはじめCCUSに携わる企業との連携を加速し、バリューチェーンの構築に取り組んでいく旨を強調しました。

講演では当社玉川が陸上設備部分に関して説明し、各方式の長短所を踏まえ、社会実装に向けて最適な方式を見極めていく方針を示しました。海上輸送部分に関してはNYKの六呂田高広(ろくろだ・たかひろ)グリーンビジネスグループ・グループ長代理が説明しました。

会場ではオンラインで参加した国内外の参加者も交え、各方式のバリューチェーン全体の評価・課題について活発な質疑応答が交わされました。

なお、GCCSIが主催したセミナーは、独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構(JOGMEC)、一般財団法人カーボンフロンティア機構(JCOAL)、公益財団法人地球環境産業技術研究機構(RITE)、日本CCS調査株式会社が後援しました。当日の講演動画と資料は後日、[GCCSI ホームページ](#)で公開される予定です。



左: NYK・横山勉執行役員

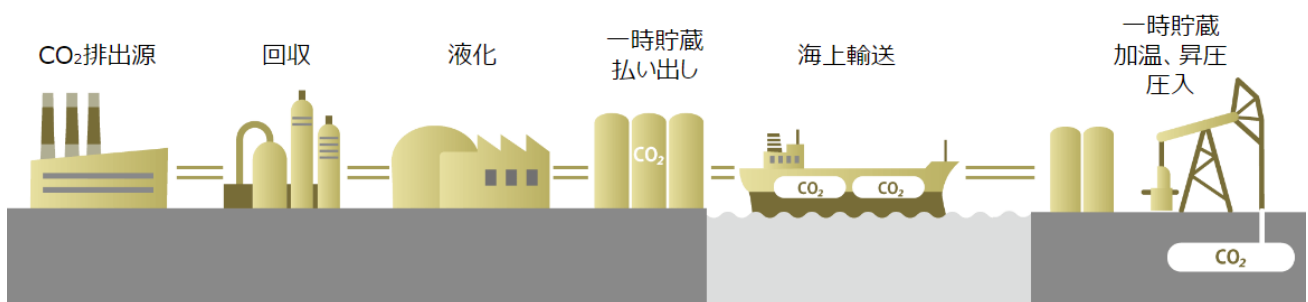
中央: 当社・櫻井公穂執行役員

右: KNCC・Anders Lepsøe (アンダース・レプソー) CEO (最高経営責任者)

当社は総合エンジニアリング会社としてこれらの検討事業を通じて、経営理念である「エネルギーと環境の調和」を目指して、カーボンニュートラル社会の実現に貢献してまいります。

(注 1) [GCCSI ウェブサイト](#)

(注 2) CCUS バリューチェーンの概念図



以上

この件に関するお問い合わせ先 : IR・広報・サステナビリティ推進セクション 池尻

Email: irpr@chiyodacorp.com

URL: <https://www.chiyodacorp.com/jp/contact/index.php>